

# 平成30年度 長野県校友会 通常総会・学術講演会・懇親会

令和元年6月22日（土）午後3時より、諏訪支部の担当により、諏訪市の上諏訪温泉「RAKO華乃井ホテル」にて開催された。

## <通常総会>

宮澤 眞 県校友会会長（62回）、来賓の渡邊儀一郎 校友会副会長（63回）のご挨拶をいただいた。議事に先立ち本年度ご逝去された中沢裕昌会員（60回）、宮坂昌弘会員（53回）、丸山 慧 会員（53回）に黙祷が捧げられた。次に、平成30年度会務・第132回校友会本部定時総会・歯学会総会の各報告がなされた。

議事として、1）平成30年度収支決算、2）令和元年度事業計画、3）令和元年度予算、4）役員改選について、5）会費徴収方法について、が上程され満場一致で承認された。

続いて、新入会員：布施利人会員（100回）が紹介され、次に本部表彰として、米寿会員：菅沼聰介会員（45回）、浅岡正義会員（47回）が表彰され、瑞宝双光章（学校保健功労）を叙勲された宮坂崇弘会員（54回）の紹介があった。次期開催地として北信地区の挨拶があり閉会した。

## <学術講演会>

総会終了後、学術講演会を開催した。講師には

志賀 博 生命歯学部歯科補綴学第1講座教授（75回）をお招きし、「健康寿命を延伸する有床義歯補綴臨床」と題しご講演いただいた。講演は「健康日本21」の中で「健康寿命の延伸」がテーマの一つであることを示した上で、「治療中心の医療から口腔機能管理の医療へ」と需要やニーズが変化していくことに触れ、患者がフレイル→口腔機能低下→口腔機能障害とシフトしていく中で、我々歯科医師が介入することで健康寿命を延伸することができることを数々のデータを持って示された。口腔機能低下症としての咬合力低下、舌圧低下、咀嚼機能低下などは歯の喪失、咬合支持の喪失と高い相関があり、近年新たに保険導入されている検査法を積極的に活用し、早期に口腔機能低下を見つけ出しその患者の口腔機能回復を図る重要性を説いた。各論においては下顎咀嚼サイクルの記録装置開発から得られた7つのパターンを正常パターンに収束させていくために、総義歯補綴臨床において人工歯配列と咬合接触の与え方について、具体策が提示され講演を結んだ。

## <懇親会>

講演終了後に記念写真を撮影し、その後盛大に懇親会が開催された。宮澤会長の開宴の辞で始まり、渡邊副会長、伊藤正明長野県歯科医師会会長の来賓のご挨拶の後、笠原健一諏訪市歯科医師会副会長のご挨拶と乾杯のご発声で幕を開けた。

地酒の高天を酌み交わしながら校友同士おおいに語り合い、楽しいひとときをすごした。

## <ゴルフ大会>

翌日、諏訪湖カントリークラブにて10名の先生方が日頃の腕前を競われ、諏訪地区の大滝祐吉会員（73回）が優勝された。

（中根 治・67回記）



平成30年度長野県校友会通常総会・学術講演会・懇親会 令和元年6月22日 於 RAKO華乃井ホテル